

# 資源管理基礎調査事業（ワカサギ、シラウオ）

鈴木 亮・鳴海 一侑

## 目 的

小川原湖における重要魚種であるワカサギ、シラウオの漁獲状況等を調査し、資源管理方策の基礎資料とする。

## 材料と方法

### 1. 漁獲動向調査

小川原湖漁協（船ヶ沢分場）におけるワカサギ、シラウオの取扱い数量について、年別（年：1-12月集計）及び月別（年級：9-6月集計）に集計した。

### 2. 魚体測定調査

2024年8月の小川原湖漁協で実施した「小川原湖シラウオ・ワカサギ船曳網試験操業調査」で入網したワカサギ、シラウオについて80尾を目標として長さ（ワカサギ＝尾叉長、シラウオ＝全長）、標準体長、体重を測定した。また、2024年7月-2025年6月、小川原湖漁協船ヶ沢分場に水揚げされたワカサギ、シラウオについても、それぞれ月1回80尾を目標として長さ、標準体長、体重を測定した。

## 結果と考察

### 1. 漁獲動向調査

#### (1) ワカサギ

2024年1-12月の小川原湖漁協船ヶ沢分場のワカサギ漁獲量は、41.0トン(対前年比39.1%)で前年を下回り、統計データがある1995年以降最低となった。(図1)。2024年級群(2024年9月-2025年6月)の月別漁獲量は、例年12月以降は減少傾向にあるが、2023年級群と同様に1-6月にかけて漁獲が極端に少なかった。各月の漁獲量について1月は620.4kg(5か年平均比7.2%)、2月は347.6kg(5か年平均比10.1%)、3月は73.7kg(5か年平均比1.8%)、4月は5.1kg(5か年平均比3.1%)、5月は1.2kg(5か年平均比0.5%)、6月は0.0kg(5か年平均比0.0%)と過去5か年平均を下回った(図2)。

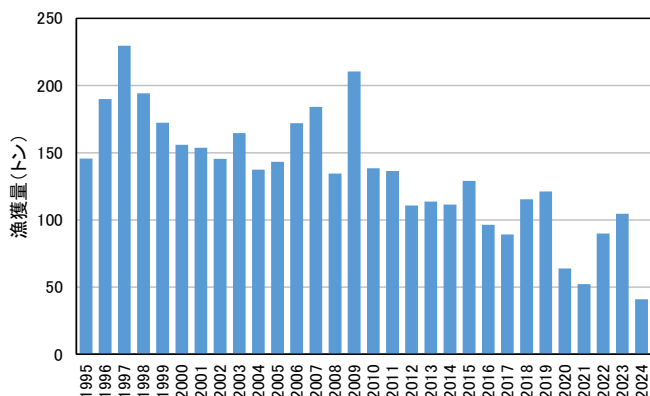


図 1. ワカサギ漁獲量の経年変化

(小川原湖漁協船ヶ沢分場取扱い、1-12月集計値)

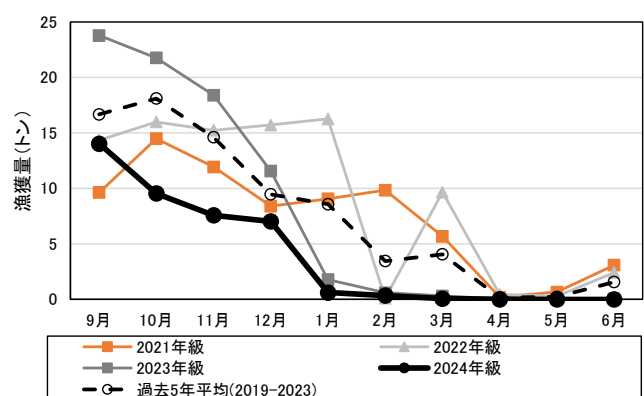


図 2. ワカサギ漁獲量の月別変化

(小川原湖漁協船ヶ沢分場取扱い、9-6月集計値)

(2) シラウオ

2024年1-12月の小川原湖漁協船ヶ沢分場のシラウオ漁獲量は、4.4トン(対前年比69.6%)で前年を下回った(図3)。シラウオの生食用出荷の自主規制により2023年級群から引き続き、2024年級群の月別漁獲量は、過去5か年平均を大きく下回った。(図4)。

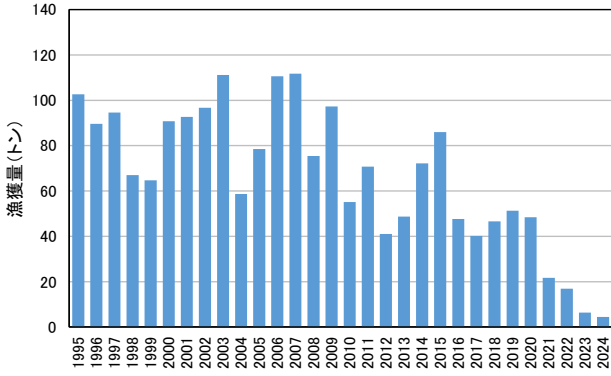


図3. シラウオ漁獲量の経年変化  
(小川原湖漁協船ヶ沢分場取扱い、1-12月集計値)

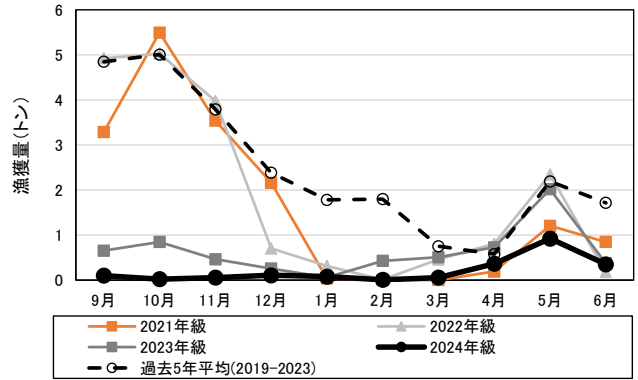


図4. シラウオ漁獲量の月別変化  
(小川原湖漁協船ヶ沢分場取扱い、9-6月集計値)

2. 魚体測定調査

(1) ワカサギ

2024年級群のワカサギの成長は、低調であった2023年級群と比べやや良かったが、2022年級群と比べると成長は劣っていた(図5、6)。2024年級群は漁獲が少なくサンプリングできない月が多かった。

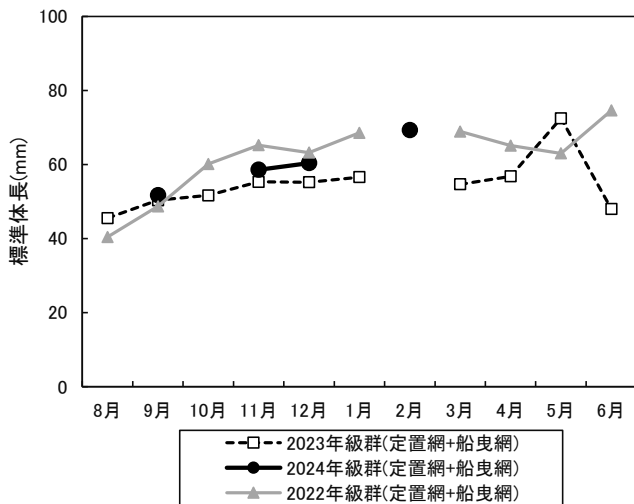


図5. 漁獲されたワカサギの平均標準体長の推移

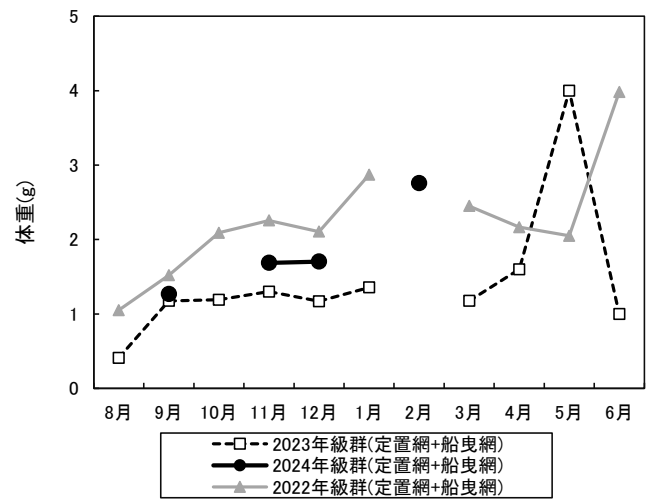


図6. 漁獲されたワカサギの平均体重の推移

(2) シラウオ

2024年級群のシラウオは、低調であった2023年級群と比べやや良かったが、2022年級群と比べると成長は劣っていた(図7、8)。2024年級群は漁獲規制により漁獲が少なく、ワカサギと同様にサンプリングできない月が多かった。

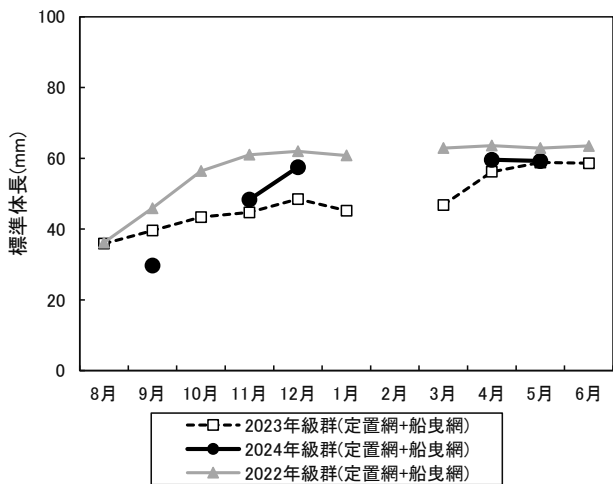


図7. 漁獲されたシラウオの平均標準体長の推移

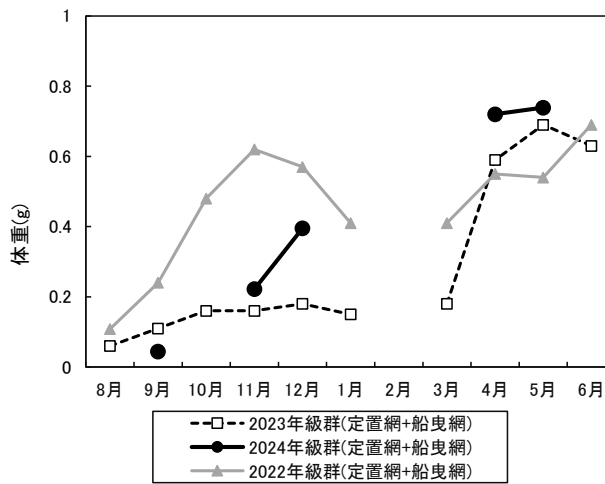


図8. 漁獲されたシラウオの平均体重の推移

文 献

- 1) 鳴海一侑(2023)資源管理基礎調査事業(ワカサギ、シラウオ).2023年度青森県産業技術センター内水面研究所報告, 12-17.